

「MBA留学はタイミング キャリア転換に不安はない」

広島

バース大学留学生

綾子さん(26歳)の毎日



「バース大MBA特有の、ビジネスを立ち上げる授業が楽しみなんです」

大学時代からMBAに来たかった。日系の銀行本店で決済業務をしたが仕事に偏りがあり、女性、一般職入社という点で限界も感じて3年3カ月で退職した。躊躇はなかった。

留学はタイミングも重要だと思う。私の場合、やりたいことと会社での状況が留学しやすい条件になった。2002年秋から準備し、2003年4月初旬に願書を出して合格した。

英国を選んだ理由は、英国で働くため英語力を高めたかったのと、バース大学での財務の授業に対する評価が高かったから。自分の貯金と両親の出資で留学したので1年という短期はうれしかったし、20代半ばで2年間職を離れるのは怖かった。

1週間前、寝不足と不規則な食事の影響で胃潰瘍になった。英国の気候も合っているし、楽しくやっていると

りだったのだが…。人間関係で悩みが多いというのがある。いつも「クラスに貢献したい」という気持ちがあつて「あの人は賢いから次も一緒にやりたい」という他の学生に対する評価を感じると、励みにもなるが負担にもなる。

小学3年から中学まで米国にいたので英語が不得意ではないのに「グループ論文の編集は自分たちがやる」と言われたりする。本心言えば自分もやりたい。英語のできる日本人として貢献したいという気持ちと、語学が得意な人の力を借りて自分は別のところで競争力を発揮した方がよいのかというところで葛藤している。

今後はまた金融関係で財務と会計を得意分野に持つマネジャーになりたい。今、日系の企業で英国に拠点を持っている企業を中心に就職活動を行っている最中だ。

授業最終日、MBA学生たちとタイ料理屋へ

年末でにぎわうバース市内



MBA授業。「がんばれ伊藤!」

滞在した学生寮で自習

ドが4人に当たるくじ引きをしたところ伊藤が当たった。伊藤はすかさず立ち上がり「感謝の気持ちを表すため、私と同じ牡牛座の人にこれをあげます」と発表。思いがけないプレゼントに、皆歓声を上げて喜んだ。きっと、伊藤が1年ここにいたら、苦労しても存在感のある学生になれるに違いないと思わせた瞬間だった。

最終日、伊藤は決心していた。「NPOのスタッフとしてMScは本当にかけがえのない経験だった。でも私はMBAで経営を学びたい。数年以内に挑戦したい」

帰国した伊藤は知人と英語資料を読んで議論する時間を定期的に作っている。また大手企業の社内講演では、200人の前でMScの内容や、日本でのNPOと企業の連携について講義も行った。経験を無駄にしない、こんな伊藤の姿を見ると、MBA留学への道は近いのではと思われる。

最後に留学を考えている読者の疑問に答えたい。

海外での学位取得を本気で考えている人へのアドバイス
①MBA以外でも仕事に使える学位がある

②常時英語に触れ、考えをまとめる習慣をつけるべし

バース大学大学院MBAコース フィナンシャル・タイムズ紙の2004年度ランキングでグローバルでは95位、欧州では24位に入った。コースは1年間。授業料は2万英ポンド(約400万円*)。廣島さんの場合、年間の住居費(光熱費込み)が4000英ポンド(約80万円*)、生活費は約8400英ポンド(約168万円*)だ。2003年からMBA学生ならば誰でも立候補できる奨学金制度が新設された。勉強の成績と学生同士の投票によって1~3人が選ばれ9000英ポンド(約180万円*)を分け合うというユニークな仕組みだ。ちなみに文中のMScは2年コースで、年間の授業料が5500英ポンド(約110万円*)。 (*1英ポンド=約200円で計算)